今後の開催講座予定

※　2月の講座の場所を福島市市民活動サポートからA・O・Zに変更しました！！ご迷惑をおかけしますが、お間違えのないようにお気をつけ下さい。

「伝承(歴史を生かすまちづくり)と地域のきずな」～完結編～

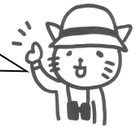
日時　平成24年1月14日(土)13:30～15:30
場所　福島市市民活動サポートセンター会議室
コーディネーター　星野珙二氏（福島大学特任教授・NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター理事長）
パネリスト　夏井芳徳氏（いわき地域学会副代表・いわき明星大学非常勤講師）
大村一夫氏（NPO法人豊かな地方を築く円卓会議代表理事）
内容　民俗学研究家や地質学研究家の専門的目線から地域づくりを考える。地層は歴史を語り、言い伝えは忘れさられた慣習を思い出させる・・・。

「行政との協働で行う災害復興計画」

日時　平成24年2月4日（土）13:30～15:30
場所　A・O・Z（MAXふくしま4階）
※福島市市民活動サポートからA・O・Zに変更しました。お間違えのないようお気をつけください！！
コーディネーター　牧田実氏　（福島大学教授・NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター常務理事）
パネリスト　川村栄司氏（福島市政策推進部参事兼企画経営課長）
早川哲郎氏（ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議事務局長）
藤原純氏　（NPO法人いいざかサポーターズクラブ理事長）
内容　震災から今日まで、福島市が復興計画を立て、様々な市民活動団体が被災者支援をおこなってきた。福島の地域ではどのような活動が行われ、どのように計画されているのだろう？生の声を会場に届けながら、会場一体型で考える。

ふくサポ探検隊～ニャンコ隊長、会議室の窓からレポート～

にゃんこ隊長



市民公益活動パートナーズの皆さんはこんな風に会議室を利用していました！！

会議室の窓からレポート！ 地域コーディネーター育成研修会

１２月９日から５回コースで、「地域コーディネーター育成研修会　第２部ワークショップ編」が行われた。（ＮＰＯ法人　市民公益活動パートナーズ主催）この研修会はふくサポ会議室を使って開催され、ファシリテーションとは何か？場づくりのコツなどの演習、「街歩きワークショップ」など盛りだくさんの内容、体験型の研修に参加者は楽しみながら学んでいた。

（下写真）
地図を作成する参加者

交流広場展示情報

１月７日（土）～１月２８日（土）まで、「ルワンダ写真展・インふくしま～日本から届いた学べる幸せ２～」を開催します。初日は１３：００より、最終日は１２：００までの展示となっております。是非、ルワンダの子ども達の笑顔に会いにきてください！！

編集後記

12月にはクリスマス、大晦日、1月にはお正月と行事の多いこの季節。
クリスマスツリーの歴史はドイツから始まります。彼らはオーク(木)を崇拝し、オークに幼児を捧げていたそうです。その習慣を止めようとオークを切り倒した時に奇跡が起こったのを記念して、ツリーを飾るようになったとか。また、森の中で、樹の間にまばゆく星の美しさを再現しようと、火を灯したろうそくを枝にくくりつけたのがオーナメントの始まりだそうです。さらに、ツリーには強い生命力が宿るとされています。暗いニュースも多い昨今ですが、ツリーの強い力にあやかって、2012年は元気あふれる福島市を取り戻したいものです。
内山、桜井

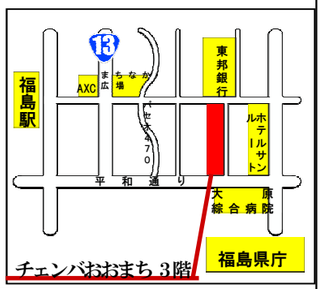
ふくサポ通信

2011年12・1月
発行日：２０１１年１２月２８日
編集：特定非営利活動法人
ふくしまNPOネットワークセンター
発行：福島市市民活動
サポートセンター
〒960-8041
福島市大町4-15
チェンバおおまち　3階
TEL：024-526-4533
FAX：024-526-4560
URL：http://www.f-ssc.jp
E-mail:f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間
午前１０時～午後９時３０分
■休館日　毎週火曜日

ふくサポとは・・・
・市民活動やボランティアの情報を提供しています。
・市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。
・登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。
なお、ふくサポの運営は福島市から委託を受けたNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが行っています。

ふくサポの連絡先はこちらから→



◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、車でお越しの節は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。

もくじ

○コラム　「どう学ぶ？チェルノブイリ」
○福島市の活動団体を訪ねる
第20回　NPO法人ヒューマン・ネットワークふくしま
○イベント現場からレポート／成年後見制度を考える　他
○助成金・イベント・災害支援など情報
○平成23年度　講座報告
○ふくふくプロジェクト報告＆連絡
○ふくサポ探検隊
～にゃんこ隊長、会議室の窓からレポート～

コラム

「どう学ぶ？チェルノブイリ」

（福島大学副学長・
ふくしまNPOネットワークセンター理事／清水修二 ）

チェルノブイリ現地を訪れるのは2度目だ。前に行ったのは1991年９月で事故の５年半後、ソ連邦が崩壊する寸前だった。当時は社会のあちこちのタガが緩んでいる印象で、なるほどこういう社会環境で原発事故は起こるんだなと、妙に納得させられたものである。

さて今度は図らずもこっちが被災者になってしまった。チェルノブイリがひとごとではなくなったわけだ。ほかならぬフクシマからの来訪者ということで、先方の政府機関もていねいに対応してくれたと思う。「福島に伝えたいことがたくさんある」という先方の思いが感じ取られた。

「チェルノブイリに学ぶとはどういうことか」という点が今回の視察で最も考えさせられたことだった。当時のソ連政府のとった措置、あるいはその後のベラルーシやウクライナ政府のしてきたことがすべて正しいともいえないし、全部間違っていたともいえないのはもちろんだ。しかし日本では自己の主張を裏付けるために「チェルノブイリを利用する」傾向がないとは言えない。避難や食品に関する日本の暫定規制値が、ウクライナやベラルーシと比べて高すぎる（緩すぎる）としばしば言われるが、事故当初の規制値は向こうのほうがもっと高かった。政府の情報がおそい、信用できないと日本では言われているが、旧ソ連の情報規制は日本とは比べものにならないくらいひどかった。

ベラルーシやウクライナでは農地の除染は「しない」まま来ている。放射能の自然の減衰を待ちながら、作目を選びつつ可能な方法で耕作をしている。日本でもそうするしかないのか、これはよく吟味しなければならない。向こうとこっちとでは農業の形態がまるで違う。広大な農地で粗放な農業をしているあちらと、山間に田んぼや畑が貼りついている阿武隈山地を、同列に論じることは全くできない。森林の様子も全然違う。向こうでは平原に木が生えていれば、それが「森」なのだ。山の水が田畑に流れ込んでくる日本の農地は、除染の点で困難が大きいだろう。

「学ぶことは倣うこととは違う」のだという点をおさえつつ、「違いを踏まえて試行錯誤から学ぶ」のが正しい学習方法だと感じた。いずれにせよたった１週間の視察である。知りたいこと、知らねばならないことはまだまだ多い。

福島市の活動団体を訪ねる

「冬の寒さ到来！！」とばかりに、雪が降ってきそうなどんより雲の12月初旬。ヒューマン・ネットワークの菅野理事長にお話しをうかがいました。

⑲回目　NPO法人　ヒューマン・ネットワークふくしま

団体の活動や熱意を伝えたい！と今回は、菅野理事長が自らペンをはしらせました！！

代表者：理事長　菅野淳一氏

会員数：１０名

活動歴：平成19年にＮＰＯ法人として設立。

(上写真)ラジオ「コミュニティの絆～うつくしまふくしまメッセージ」の取材風景

活動内容：「ヒューマンネットワーク」。この言葉そのままに、たくさんの福島市民が連携し、その結びつきによって街を活性化させよう…というのが我々ＮＰＯ立ち上げの目的です。発足は平成１９年９月。４年間活動していますが､メンバー全員サラリーマンなので､活動時間に限界があるというのが悩みです。しかし、素人の良さを生かし、可能な時間の範囲内でできる限り頑張ろうと皆張り切っております。

私たちの活動は主に観光ガイド。ガイドとはいってもガイドブックにあるような誰もが分かる案内はいたしません。忘れられたり、気にも留めないような小さな小さな文化財を、丁寧に紹介しています。

たとえば、市内置賜町の通称「おかま通り」。我々は「ここは米沢藩主も参勤交代で通った江戸時代の米沢街道なのです。いつの間にか戦後に付けられた不思議な名前に変わってしまいましたが。」と紹介します。

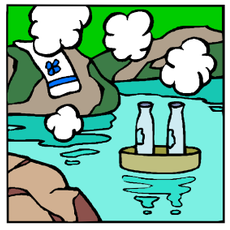
具体的な活動の場としては、阿武隈急行の観光ボランティアとして、イベント列車などの車内で沿線のガイドを行っております。また、各種団体・サークル、企業関係の旅行、フリーウォークなどでも、同行してガイドをしたり、旅ネタの提供などさせていただいております。こんな機会で知った旅ネタは､年５～６回開催している「ふくしまの歴史と文化に触れる会」という会で報告をしています。

皆さんも旅行の機会や、旅ネタを聞いてみたいというご希望がありましたら、ぜひお声を掛けてください。

でも、今年は残念ながら震災と原発事故により観光ガイドとしてほとんど活動の場がありません。そんなことから、今は、赤い羽根共同募金の助成を受け、ＦＭポコさんと共同で、福島の街の声を録音し東京のコミュニティＦＭで放送するという活動をしています。避難をされている方や風評被害でお困りの方にインタビューに行くかもしれません。その際は、よろしくご協力をお願いいたします。

福島県は震災と原発事故により、観光客が激減しています。来年こそはこの減少を取り戻さなければなりません。我々は素人のガイドではありますが、福島をもっと面白くしようと頑張っております。福島市民皆がタッグを組んでお客様を呼んで来ましょう。

(上写真)９月１９日の親子で体験
裏磐梯バスツアー風景



イベント現場からレポート

桜井スタッフ

「コラボ☆ふくしま」選考事業
寸劇の取材へ行ってきました。

スローフード福島、醤油づくりに挑戦！

１０月２９日(土)、内池醸造株式会社で醤油づくり体験が行われた。（スローフード福島主催）工場見学の後、ペットボトルを使って醤油仕込みにチャレンジ！この行事は昨年も行われ、昨年の参加者は、昨年仕込んだペットボトルを持参し、醤油搾りのレクチャーをうけた。仕込んだ醤油の香りや味を楽しみ、同じ材料でも、管理をした人、場所、管理の際の振り混ぜ方によって、香りも味も違ってしまうことを身をもって体験した。参加者は醤油について目や耳、舌、鼻と、身体を使った学びに、参加者同士の交流の輪を広げ、楽しく学んだ。今年、仕込んだ醤油は来年の秋に熟成し、搾れる予定だ。スローフード福島では今後も、こういった体験学習を１～２か月ごとに行う計画である。

(上写真)醤油を仕込む参加者

寸劇で語る、成年後見制度

１１月６日(日)、アオウゼにおいて市民後見サポートの会による、寸劇「安心できる今日・明日」が上演された。この寸劇は、福島市主催の福島市民のくらし展2011 震災と放射能 ふくしまで暮らすために の中で企画のひとつとして行われた。劇には、認知症の方が放射能測定器を売りつけられるなどのタイムリーな話題が盛り込まれ、見る側の関心をひいていた。

劇終了後には、図を用いての成年後見制度のしくみの説明もあった。震災後、自分の将来を考える方達が増えていて、サポートの会への相談も増加しているという。最後まで安心して自分らしく人生をおくれるよう、成年後見制度を知って欲しいという会の皆さんの熱い思いが伝わってきた。

(上写真)寸劇風景

福島会議

（上写真）市民活動分化会

１１月１１日（金）～１３日（日）の３日間、福島大学他県内各地の会場において「福島で生きる。世界と生きる。」をテーマに福島会議が開かれた。この会議は、福島県の人々が手を携え、世界に声を発信するというイベントで、１２日のには「市民活動の現場から」をタイトルとした分科会も開かれ、コーディネーターにシャロームの大竹隆氏、パネリストにはビーンズふくしまの中鉢博之氏、まごころサービス福島センターの須田弘子氏、ルワンダの教育を考える会カンベンガ・マリールイズ氏、陽だまりハウスの大槻隆夫氏等６つのＮＰＯ・ＮＧＯ団体をむかえ、福島からの現状などを発信した。会場の多くの市民活動団体は熱心に聞き入っていた。

講演会「成年後見制度と市民後見人」

１２月２日(金)、福島テルサで、～地域の安心を支える～「成年後見制度と市民後見人」をテーマに東京大学政策ビジョン研究センター　特任教授　宮内康二氏の講演会が行われた。（主催　ふくしま成年後見センター）宮内氏は制度の概要や仕事などについて解説。日本には、認知証や精神障害者、知的障害者が約７５０万人いるが、制度を利用している人は１万人に満たない現状、認知証の約６割が１７０万円ずつ悪質商法にあっていると言われていることなどを話し、後見人が担う役割についても詳しく述べた。会場内の約６０名の参加者は熱心に耳を傾けていた。

（上写真）講演中の宮内氏

ふくふくプロジェクト報告＆連絡

（下写真）調査をするJAIC

１０月２７日(木)、ＮＰＯ「花見山を守る会」では、ＪＡＩＣの協力のもと、支援品の配布の際に、福島市内の仮設住宅約５００世帯のアンケート調査をおこなった。この調査は時間とともに大きく変わるニーズに対応することが目的だ。この他にも、県北地域絆づくり支援センター（ＮＰＯ法人シャローム）では被災者支援団体にスタッフを手配するなど多くの市民活動団体が福島復興のために活動している。これをうけて、２月４日(土)に、「ふくしま市民活動フォーラム２０１２」を開催する予定だ。多くの市民活動団体の参加のもとに活動の輪を広げていきたい、との考えだ。

助成金 活動支援 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

第20回「住まいとコミュニティづくり活動助成」

〈対象〉住まいとコミュニティづくりに関わる以下のような分野についての活動
○社会のニーズに対応した住まいづくり
○住環境の保全・向上
○地域コミュニティの創造・活性化
○安全で安心して暮らせる地域の実現
○その他（その他、豊かな居住環境の実現につながる活動）
〈助成金額〉1件あたり上限100万円
〈応募締切〉平成24年1月13日（金）
〈お問合せ先〉一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団　助成係
電話　03-3586-4869

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業　〈第6次応募〉

〈対象〉東日本大震災で被災された方がたへの救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人等
〈助成金額〉①短期（おおむね1か月未満）の活動：50万円以内　②中長期（1か月以上）の活動：300万円以内
〈応募締切〉平成24年1月31日（火）
〈お問合せ先〉社会福祉法人
中央共同募金会企画広報部
（ボラサポ担当）
電話　03-3581-3846（代）

JCIE東日本大震災復興支援プログラム
メットライフアリコ社員寄付 子ども支援プログラム

〈対象〉被災した子どもを支援する活動、被災地で子育てに関わる人々の取り組み。日本国内に拠点を持ち、日本国内で活動する非営利団体。
〈助成金額〉総額1500万円
1件あたり30万～100万円以内
〈応募締切〉平成24年1月31日（火）
〈お問合せ先〉
（公財）日本国際交流センター
JCIEメットライフアリコ
子ども支援プログラム事務局
E-mail:kodomo@jcie.or.jp

東日本大震災現地NPO応援基金

〈対象〉①岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」（任意団体含む）② ①の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
〈助成金額〉1件当たり500万円以内
〈応募締切〉平成24年8月31日まで随時
※3月、6月、9月の選考委員会でそれぞれ前月末までの応募について選考
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人
市民社会創造ファンド
担当：坂本・武藤
電話　03－3510－1221

RING!RING!プロジェクト　平成23年度
東日本大震災復興支援補助　第2次募集

〈対象〉被災地域および被災者受入地域における支援拠点づくり活動、高齢者、児童、障害者等を対象とした生活支援活動。被災地域の記録、調査活動。被災者や被災地域が行う復興活動。
〈補助金額〉予算総額1億円
1事業あたり300万円以内
〈応募締切〉予算総額に到達次第
〈お問合せ先〉財団法人JKA
補助事業グループ 公益・福祉振興チーム
E-mail：fukkou23-2yobo
@keirin-autorace.or.jp

お知らせ・イベント 情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

「成年後見制度　説明会」
～考えてみませんか？
安心できる今日・明日～

〈場所〉福島市中央学習センター
〈開催日時〉
1月12日（木）・2月9日（木）
10：00～11：30　18：30～20：00
※1月は夜間の説明会はありません
〈参加費〉無料（資料代300円）
〈お問合せ先〉
NPO法人 市民後見サポートの会
TEL/FAX　024-522-1426

親子で芸術療法　えがおに会える！
こころのアート教室

〈日時〉毎月第2・第4土曜日 10時～12時
〈場所〉緊サポ瀬上支部「こども基地」
福島市瀬上町宮代字田尻30－1
〈対象〉どなたでも
〈参加費〉無料（ただし教材費としてひとり250円）
〈お問合せ先〉
NPO法人まごころサービス福島センター
（子育て支援部門）
こども緊急サポートネットワーク
ふくしま事務局　担当：佐藤・河野
TEL 024－592－2270

宿題・勉強　お手伝いします！！

来年から新教育課程により授業時間・内容は増加の予定です。緊サポ瀬上支部「こども基地」では学習支援を始めます。
〈日時〉1月5日（木）～毎週木・金曜日
16時～18時
〈場所〉緊サポ瀬上支部「こども基地」
福島市瀬上町宮代字田尻30－1
〈対象〉小学生　1日10人限定
〈費用〉1時間500円
（宿題を中心に勉強のやり方教えます）
〈お問合せ先〉
こども緊急サポートネットワーク
ふくしま事務局　担当：佐藤・河野
TEL 024－592－2270

グループ る・ぱる 八百屋のお告げ

〈内容〉訪ねた親友がどこかおかしい。問い詰めると「近所で占いがよく当たると評判の八百屋さんから、今夜の12時に死ぬと言われた」という…。そこにもう一人の親友も大きな悲しみを抱えて訪ねてきて―　喜劇の傑作です。
〈場所〉福島テルサ FTホール
〈日時〉1月23日（月）19：00～
24日（火）13：30～ 18：30～
25日（水）13：30～
〈費用〉入会金　1，000円
月会費　一般　2，400円
大学生　1，500円
高校生以下　500円
〈お問合せ先〉福島演劇鑑賞会
TEL　024－523－3836

“ふれあい世話人”があなたを支援します

一人暮らし高齢者、高齢者世帯（65歳以上の判断能力のある者）が社会から孤立することなく、自立した生活ができるよう、ふれあい世話人が生活を支援します。（電話連絡下さい）
1．サービス内容　（1）安否確認（2）話し相手（3）生活相談（4）福祉医療の情報提供など
2．利用料金
（1）基本サービス
Ⅰ型（月1回訪問と月1回電話連絡）1,500円/月
Ⅱ型（月2回訪問と月1回電話連絡）2,500円/月
（2）付加サービス　※基本サービス利用者のみ
通院付添（送迎の手配と診察付添）　900円/回
買物代行（日常用品を除くテレビ等）　500円/件
〈お問合せ先〉ふくしま成年後見センター
TEL 024－535－5451

平成23年度　講座報告

10月の講座

（上写真）NPO法の改正・新寄附税制講座

「NPO法改正・新寄付税制」

10月30日（日）、関口宏聡氏（NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会プログラム・ディレクター）を講師にむかえ、第2回　市民活動ステップアップ講座「NPO法改正・新寄付税制」が行われた。今年6月、13年ぶりに改正されたNPO法の内容や改正にかかわるNPOをとりまく背景、認定NPO法人制度の緩和内容や新しい寄付税制などを講義し、講座終了後、参加者と講師との交流会も行われた。

11月の講座

（上写真）ボランティア講座

「ボランティア講座・こどもの元気のつくり方～ふくしまの楽しい大人たち～」

11月12日（土）、齋藤美佐氏（ふくしまNPOネットワークセンター）コーディネーターに、半澤由美子氏（エフ・スポーツ）、斎藤公子氏（福島市レクリエーション協会）、加藤忍氏（ビーンズふくしま）をパネリストにむかえ、第3回　市民活動ステップアップ講座「ボランティア講座」（パネルディスカッション）が行われた。参加者からは、身近に感じられる事例が多く、成功例、失敗例と多くの事例が聞けて参考になった。との声があげられた。

（上写真）会計・税務講座

「NPOの会計・税務講座1・2」

11月26日（土）、 27日（日）の2日間、加藤英夫氏（有限会社　かとう会計事務所　代表）を講師にむかえ、第2・3回NPOマネジメント講座「NPOの会計・税務講座」が行われた。NPO法の改正にともない、会計・税務がどのように変わったのかを丁寧に講義。150ページ以上にもおよぶ資料を片手に、新寄付税制など、内容がぎっしりつまった講義内容は、実り多き講座となった。

12月の講座

（上写真）資金開拓講座

「目からうろこの資金開拓術（ファンドレイジング）」

12月4日（日）、田中尚輝氏（社団法人長寿社会文化協会　常務理事・NPO法人市民福祉団体全国協議会　専務理事）を講師にむかえ、第3回　NPOマネジメント講座「目からうろこの資金開拓術」が行われた。全国の多くの事例を知る田中氏の講演とあり、参加者からの多くの質問がとび、講座終了後、受講者同士の交流も生まれた。

（上写真）伝承と地域の絆講座

「伝承と地域の絆～歴史を生かすまちづくり～」

12月10日（土）、星野珙二氏（ふくしまNPOネットワークセンター）をコーディネーターに、村川友彦氏（福島市教育委員会文化課市史編さん室）、深田俊雄氏（有限会社バーグ・プラン研究室）、畠中正一氏（さとぱたけ）をパネリストにむかえ、第4回　市民活動ステップアップ講座「伝承と地域の絆」が行われた。震災後の調査をもとにした事例や、地域の歴史や現在の動きがパネリストから語られ、参加者は地元の歴史に思いをはせた。